

ここにちには厚高です

北海道厚真高等学校が存続するのかそれともなくなるのか、その行方を心配された町民の方々も多いことと思います。

6月2日、北海道教育委員会は、平成20年度から平成22年度までの公立高等学校配置計画案を公表しました。その案によると、厚真高校は、平成20年度から北海道苫小牧東高等学校をセンター校としての地域キャンパス校に位置付けられ、教員が1人減になりますが、出張授業や遠隔授業などセンター校の支援を受けながら、北海道厚真高等学校として存続していく予定です。今月は、地域に根ざした特色ある教育を推進している厚高の教職員や生徒の方々から紹介文が届いていますので、活発な活動をしている厚高の姿を皆さんにお知らせします。

学習活動の特色について

今年度の全校生徒は107人。本校では少人数の利点を生かして一人ひとりが分かる授業を推進しています。特徴的な授業は次のとおりです。

少人数教育

全ての学習の基礎となる国語では、クラスを半分にした2展開授業を実施しています。この授業はゼミのような雰囲気です。生徒と教師が意見を交わしながら進められ、生き生きとした生徒の活動が見られます。

チームティーチング

理数科離れが心配される現代ですが、本校の数学は教員が2人で教えるチームティーチングを実施しています。メイン教師は全体を指導して、どの力を伸ばし、数

学がちょっと苦手という生徒には、もう一人の教師（今年度は学校長が担当）が分かるまで徹底的に個別の指導を行います。

生きた英語に触れる

英語は週に一度、英語指導助手を授業に迎えています。今年度は本校の英語教諭と2人のネイティブスピーカーの計3人で行う授業もあります。選択英語の授業では教師と生徒がマンツーマンという場面もあり、生徒は生きた英語に触れています。また、放課後の英語同好会でも外国人教師との交流があり、楽しいゲーム等の活動を通じて国際理解教育の場となっています。

家庭生活の基礎を身に付ける

1年「総合的な学習の時間」、3

年選択授業「家庭看護福祉」では、隣接するグループホームやわらぎでの見学・実習を行っています。また、専門講師を招いての点字、手話学習などを実施。2年の「家庭総合」では保育園への訪問も実施しており、現代の家庭生活に不可欠な育児と介護という実習を高校時代から体験しています。

情報化社会への対応

商業科目である文書デザインや情報処理の授業では、パソコン操作やIT活用法などの現代社会に必要なとされる技術を習得します。パソコン教室には40台以上のパソコンがあり、授業は2人体制で行き届いた環境が備わっています。

個々の実力をつける

生徒の学力向上を図るため、家庭学習課題（いわゆる宿題）を毎日出題しています。これを全教員で分担して添削指導しています。

青空を仰ぐ厚真高校



1週間分の課題について翌週試験を行い、理解が不十分であった生徒には放課後に個別指導を行っています。

生徒会活動について

学校祭

7月13・14の2日間、第27回学校祭「世界遺産〜自分たちが創り上げる遺産〜」を開催しました。

1日目。生徒会が企画したオーピングビデオ上映とゲームで厚高祭の幕が上がり、続いて各学年演劇の上演。今年は全学年ともにハイレベルな演技力で完成度の高い演劇を見せてくれました。3年生は本番直前まで台本の手直しがあったりと悪戦苦闘しましたが、その甲斐あって見事「金熊賞」を獲得。また、1・2年生も堂々とした演技を見せてくれました。



2日目。今年の装飾テーマは、「世界遺産」。各教室から廊下、玄関に至るまでさまざまな遺産で飾りました。各学級では、ピラミッドや知床、カサ・ミラをテーマにしてそれぞれ工夫を凝らした装飾となりました。中でも3年生はカサ・ミラがあるスペイン料理の調理にも挑戦しました。そのほかには、美術部と写真部の作品展や激安チャリティーバザー、食堂バザーも行われました。

午後からは個人発表と教員発表が行われ、生徒有志のバンド演奏と先生方の寸劇で会場は大盛り上がり。グラウンドで行った後夜祭は、ジンギスカンの食材を賭けた鬼ごっこやミニ運動会、ビンゴゲームなどを行い、学校祭最後の時を楽しく過ごしました。大きな達成感と少々の名残惜しさを感じながら、盛大な花火をクライマックスとして厚高祭の幕は降ろされました。

部活動の状況

写真部

現在3人で活動しています。普段は個々で撮影しています。

が、6月には部として「YOSA KOIソーラン祭り」の撮影会に行きました。これは毎年行っているもので、道庁赤レンガ前の会場で動きのある力強い写真を撮ることができました。

また、7月の学校祭では写真部の展示も行いました。今後の活動としては、9月に高文連苦小牧支部の大会があり、そこで入賞すれば10月に稚内で開催される全道大会に出場できます。1人でも多く入賞できるように頑張りたいと思います。



中井康仁くん(3年)の作品

テニス部

現在8人が所属していますが、5月の高体連の大会を最後に3年生が引退してから5人で活動しています。

練習は学校のコートおよびスタドームで行っています。大きな学校では低学年の生徒は実際にボールに触れる時間が少なくなりがちですが、本校は少人数なので1年生から3年生までが同じくらいボールに触れることができます。残念ながら高体連では、勝つことはできませんでしたが、秋の新人戦ではよい結果を残すことを目指しています。

バドミントン部

現在、男子8人、女子5人の総勢13人です。

全道大会には7年前に出場以来、毎年駒を進めています。今年度も高体連室蘭支部予選で男子団体3位、女子団体8強、男子ダブルス3位という成績を収めました。今後、全道大会でも厚高旋風を巻き起こしたいと日夜練習中です。

自然科学同好会

今年できた同好会です。現在、3人の部員が厚真町周辺のロー

層の性質を調べています。

ローム層とは、いわゆる「赤土」のことです。この層の中には、遠く離れた中国大陸に起源を持つ粒子が含まれています。どのくらい大陸起源の粒子が含まれているかは過去の気候変動を反映していると考えられています。ローム層の性質から氷河時代の厚真の気候の復元めざし、地道な分析作業を進めているところです。

ESS

ESS(English Speaking Society)は3年生3人、2年生2人の計5人で活動しています。

活動日はALT(語学指導助手)が来校する毎週月・水曜日の放課後でALTと一緒に英語で会話をしながら、英語のゲームや映画などに触れることです。今年度は、これまでトランプを使ったゲームが主でしたが夏休み明けには違う活動も取り入れていく予定です。

部員が少人数なことに加え、水曜日にはALT2人が対応してくれるなどとても恵まれた環境の中で、楽しみながら英語を学んでいます。

美術部

現在、3年生5人、2年生5人の計10人で活動しています。

平日は、個々にイラスト等を描いています。今年7月に専門学校先生を招き「イラスト講習会」を実施しました。一枚の紙に対する文字やイラストの配置や効果的な構図の取り方などについて指導いただきました。

また、学校祭展示では、平面のイラストの他に団扇のデザインに挑戦しました。凹凸があり大変苦戦しましたが、夏らしい作品になりました。

今年度は高文連の大会に出品できるよう、絵画製作にも取り組んでいきたいと思っています。

ポランティア部

現在、13人で活動に取り組んでいます。

毎月参加している千歳市での夜間託児ボランティアをはじめ、4月にはボランティアセミナーへの参加、6月は田舎まつり、7月は厚真福祉会運動会で活動をしました。秋には高文連支部大会の当番があるので8月から本格的な準備に取りかかります。

高文連若小牧支部としての活動は決して活発とは言えない状況ですが、各校の意識を高め、新しい

ボランティア活動の可能性が見つけられる実りある大会運営を目指します。



託児ボランティアで子どもと遊ぶ一年生の齊藤睦さん(右)と渡辺彩乃さん

野球部

今年度の野球部戦績は春季大会が室蘭栄高に0対8(7回コールド)、夏季大会が若小牧南高に0対10(5回コールド)と敗戦しました。

現在は、1・2年生13人で秋の大会に向けて猛練習をしています。これまでは、地区での1勝を目標にしていますが、現在、「どん底から頂点へ」を合言葉に支部代表を目指して頑張っています。



平取高校との練習試合で力投する市村啓太くん(2年)

こんにちは厚高です

進路指導の状況について

昨年度の概況

平成18年度卒業生の進路状況は、進学17人、就職13人です。

進学希望者の数は例年に比べると多かったです。地道な取り組みの結果、多くの生徒が志望校に進学することができました。

就職希望者は厳しい求人状況の中でやや苦戦しましたが、早期からしっかり取り組んでいた生徒は好結果を出すことができました。

やはり夏休み中の取り組み方が勝敗を分けたようです。



3月1日、31人が学びやを巣立った

今年度の概況

就職活動解禁日を直前に控え、

3学年の動きが慌ただしくなってきました。今年も、昨年と同様に夏休み中の面接練習や添削指導の志願者が多く、生徒一人一人が進路実現に向けて前向きな取り組みを見せています。

本校の進学希望者の多くは、公募推薦や指定校推薦といった推薦受験希望であることから、年内の早い時期が勝負の時となります。ここ数年で指定校推薦枠も増えています。卒業生の進学先についての努力が評価されているものとうかがえます。

当然のことながら、目標を達成するためには早期の対策が必須です。特に人気が高く、高倍率になることが予想される医療系や福祉系への進学には専門分野の知識も必要で、その指導にも努めています。就職希望者についても、早い段階での準備や状況に応じた柔軟な対応も求められ、数手先を考えた行動が必要です。

また、企業や職種によって求める資質が大きく異なってくることから志望時の見極めが重要と考えています。このようなことを分析しながら進路指導部は、生徒全員の進路実現に向けて取り組んでいます。